

「第7回計算光学研究会」報告

【報告者】石川 慎二 (宇都宮大学)

【日程】2015年7月15日 (水)

【参加人数】18名

【開催場所】埼玉大学東京ステーションカレッジ

【報告】

2015年7月15日13時より、埼玉大学東京ステーションカレッジにおいて、第7回計算光学研究会が開催された。宇都宮大学、大阪大学、埼玉大学、千葉大学、電気通信大学、静岡大学、東京工業大学の7つの大学から17名の学生と1名の教員が参加し、口頭発表とそれに対する質疑応答や議論を行った。

本研究会では、コンピュータの発達や高速化に伴う情報処理技術の多様化・複雑化のもと、光学分野の研究を行う若手教員や研究員、学生が自分のもつ技術を持ち寄り、情報交換や議論を行うことにより大学を跨いで知識や技術を共有することを目的としている。さらに、学生が主体となり研究会の運営を行うことで学生間のネットワークを形成し、交流を通じた学生の視野拡大を目指すものである。

今期の開催では、学生6名による口頭発表が行われ、光学分野の研究を主とする内容が議論された。計算機合成ホログラムの作成・高速化手法や、デジタルホログラフィにおける統計的手法や圧縮センシングの応用、複合解像度方式や符号化を用いた超解像イメージングなど、多彩な研究について発表され、積極的な質疑応答がなされた。学生の視点から基礎的な質問も多くなされ、少人数での開催だからこそ可能な議論も活発に行われた。

口頭発表後は、今後のCOWGの幹事編成について話し合った。その結果、今後の幹事編成として、新たに東京工業大学と大阪大学から二名の幹事の参加を予定している。

研究会の終了後には懇親会が行われ、活発な意見交換がなされた。また、大学を跨いだ学生同士の親睦が深められ、有意義な場となった。全体を通し、本研究会の目的を達成するとともに、有意義な時間を提供することができた。

本研究会が開催されるにあたり、顧問である情報通信研究機構の成瀬誠先生、ワーキンググループ幹事と参加者の皆様、そして各関係者の皆様に多くの協力を頂いたことに感謝し、この場をお借りしてお礼を述べさせていただきます。